



Chengdu 2021 FISU World University Games 参加報告書

国際審判員（東京）成田泰久

国際審判員（岐阜）千田隆夫

1. はじめに

本大会は、本来2021年夏に開催される予定でした。周知のとおり2020年初より新型コロナウイルスが、世界中で猛威をふるい、多くの痛手を負ったことは記憶に新しいものです。2020年の東京オリンピックが史上初の延期となったように、本大会も2年間延期され2023年に漸く開催されたのでした。現地の方々や成都市内の歓迎ムードはとても盛大でありました。

FISUワールドユニバーシティゲームズは、国際大学スポーツ連盟（FISU）が主催する学生を対象にした国際総合競技大会で、2年ごとに開催されます。従来は、「ユニバーシアード競技大会」と称されていましたが、中国・成都で開催の夏季大会から名称変更し開催されました。

大会延期に伴い2021年に条件を満たした選手が2023年大会にも出場できるよう変更されました。

【出場資格】①現役大学生または2020年1月1日以降に大学を卒業した選手であること②1996年1月1日から2005年12月31日の間に生まれた選手であること。

2. 大会概要

大会名	FISUワールドユニバーシティゲームズ（2021/成都）
開催地	中国・成都
期間	2023年7月28日～8月8日（12日間）
実施競技・種目	15競技267種目（2023年6月13日時点）

（1）ローイング競技日程

2023年8月4日～8月6日

（2）種目

Men : M1x, M2x, M2-, M4-, M8+, LM1x, LM2x

Women : W1x, W2x, W2-, W4-, W8+, LW1x, LW2x

Mix : Mix4x

（3）参加国

ARG, AUS, AUT, AZE, CHN, CZE, GER, HUN, INA, IRI, ITA, JPN, KOR, LTU, MDA, NED, NOR, POL, RSA, SGP, SUI, SWK, TPE, TUR, USA（以上25ヶ国）



(4) 会場

四川水上運動学校 Sichuan Water Sports School 2000m
(中華人民共和國四川省成都市新津区)

3. 日本選手の成績

【軽量級】

- ・ LW2x (アイリスオーヤマ・角谷真緒、明治安田生命・米澤知華)
総合2位 (出漕8クルー)
- ・ LW1x (仙台大・上舘真央)
総合4位 (出漕7クルー)
- ・ LM2x (NTT東日本・一瀬卓也、早稲田大・青木洋樹)
総合6位 (出漕11クルー)

【オープン】

- ・ M2- (トヨタ紡織・柘植実、同・是谷有輝)
総合7位 (出漕9クルー)
- ・ W1x (明治安田生命・飯島佐和子)
総合8位 (出漕15クルー)

4. 参加審判員

President of the Jury

LIU Dongxiao

WR/FISU 1505

Members

LIU De Hai

CHN 1504

XIE Degang

CHN 1123

HUANG Rucong

CHN 1461

LJUBIC Duro

CRO 1221

LO Tze Yang

HKG 1732

NARITA Yasuhisa

JPN 1793

KWON Jae Hyung

KOR 1638

SUDNICKAS Tadas

LTU 1436

FUENTES CASTANEDA Santiago

MEX 1366

KHAING Mon Mon

MYA 1655

RAVENSBERGEN - VAN DER LELIJ Jacomine

NED 1302

KHAN Imtiaz

PAK 1195

SONTAYANANON Sijnee

THA 1776

MAO Ying-Hai

TPE 1578



BEN KHEDHER Anis

TUN 1396

CHUN Melissa

USA 1809

SENDA Takao

WR-UC 1230

LERIN Jercyl

WR-UC 1493

World Rowing Technical Delegate

NG Victor Wing Ning

HKG



5. 会場施設

【艇庫棟】学校の既存施設を利用



【コース全景】2000m（コース対岸に伴走路、手前側に放送車両道路）





【スタートエリア】



【フィニッシュエリア】



【計量 (選手・艇)】



6. レースにおける特記事項

大会期間中は、日本同様の酷暑でありました。大会運営自体に大きなトラブル



ルなく運営されてきました。しかし、強い日差しの中で死力を尽くした選手には、厳しい状況であり帰艇棧橋に艇をつけると同時に倒れこむ選手も多く、特に決勝レースでは、救助を行う医療スタッフ不足状況となっていました。

(1) レース使用艇について

日本国内では、まだ馴染みが少ない「FALCON RACING」製の配艇方式にて運営。創業30年ほどの中国国内に生産拠点を置く中国メーカー。Falcon Racing UK (イギリス) と Falcon Racing Europe (ヨーロッパ) と販売拠点あり。



(2) 天候急変時の対応について

審判講習などでも、気象情報で雷雨が近づいてくる予報や、遠方で雷が聞こえた場合には、水上の艇に対して避難を呼びかけます。一方で、レース中の艇に対しての退避タイミングは、運営側の判断によります。

あいにく、日本チームのレース中にスコールがあり、オールが止まり順位の替わる状況がありました。自然の中での競技といえ公平性に欠ける場合は、レース時間をずらすなど事前対応の必要性もあったのではと考えさせられるものでした。



(3) ダブルエントリーについて

艇計量対象となった男子シングルスカル選手は、ダブルエントリーであり、自身の次のレース時間も迫っていたため、帰艇棧橋に到着するとすぐに艇を乗り換え出艇してしまった。コーチ等もその選手に付き添っており、艇計量対象のシングルスカルを置きっぱなしにして戻ることがなかった。最終的に艇



計量を実施することができなかった。

艇計量は、選手自身でなくても良く、コーチ等の関係者に対応させることも可能のあるため、そのような指示を現地N T Oにしっかりと伝えるべきであったとの反省も残るものであった。

(4) 艇計量場前の艇収容ラックについて

会場設営にも課題がありました。艇収容ラックが、会場目一杯に設置されており、艇計量対象クルーを誘導する通路も狭く、計量場の前にも設置されており艇を計量器に載せることも苦戦しました。

特にエイトなど大きな船になると尚更難しく、艇収容ラック上の艇と接触する危険性もあり課題があったように思います。

(5) ユニフォームと艇への標示の方針転換について

本大会ではF I S U（国際大学スポーツ連盟）の規則が適用されます。F I S U規則では、選手のユニフォーム及び艇に表示できるのは、国名と製造者（30 cm 2カ所以内）のみとされています。つまり、スポンサーの表示は、ダメということです。このことが前日のチームマネージャーミーティングでアナウンスされず、第1日目のレースが始まってから審判がチェックして是正を求めることになりました。

ところが、第3日（最終日）のレース前の Jury meeting で、「スポンサー表示を1カ所のみ認める」と審判長が言いました。なぜ最終日になって方針を変更するのか、理由は不明でした。さらに、参加している全チームへの連絡もされていないようでした。（直接、日本チームのコーチに確認しました）初日にスポンサーの表示はダメとされてテープで隠したケースもあったので、それが最終日にはOKということになります。

問題なのは、この方針変更を知っているチームと知らないチームがあることです。それで、審判長 LIU Dongxiao (CHN) に「なぜこのような変更を最終日になってから行うのか？不公平だし、混乱をきたすので、初日の規則に戻せないのか？」と言いました。しばらくして審判長が戻って来て、「この変更は ARF の Chen Chunxing 会長からの指示です。理由は、ローイング競技のスポンサーに配慮する必要があるからだとのことです。」との回答でした。大会のスポンサーを大事にするのはわかりますが、それであれば最初からきちんと全チームに、「F I S U規則からは外れるが、ローイングではスポンサー表示を1カ所のみ認める。」と伝えておくべきです。釈然としませんでした。実際、最終日にスポンサー表示ありのクルーがあったかどうかは最後までわかりませんでした・・・。

以上